

<臨床>Universitat Hamburg,  
Universitäts-Krankenhaus klinik für  
Kieferkrankheiten Eppendorfの紹介(海外リポ  
ート)

著者名(日)	村瀬 博文
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	1
号	1
ページ	191-193
発行年	1982-12-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1145/00006668/">http://id.nii.ac.jp/1145/00006668/</a>

## 海外リポート

# Universität Hamburg, Universitäts-Krankenhaus klinik für Kieferkrankheiten Eppendorf の紹介

村瀬 博文

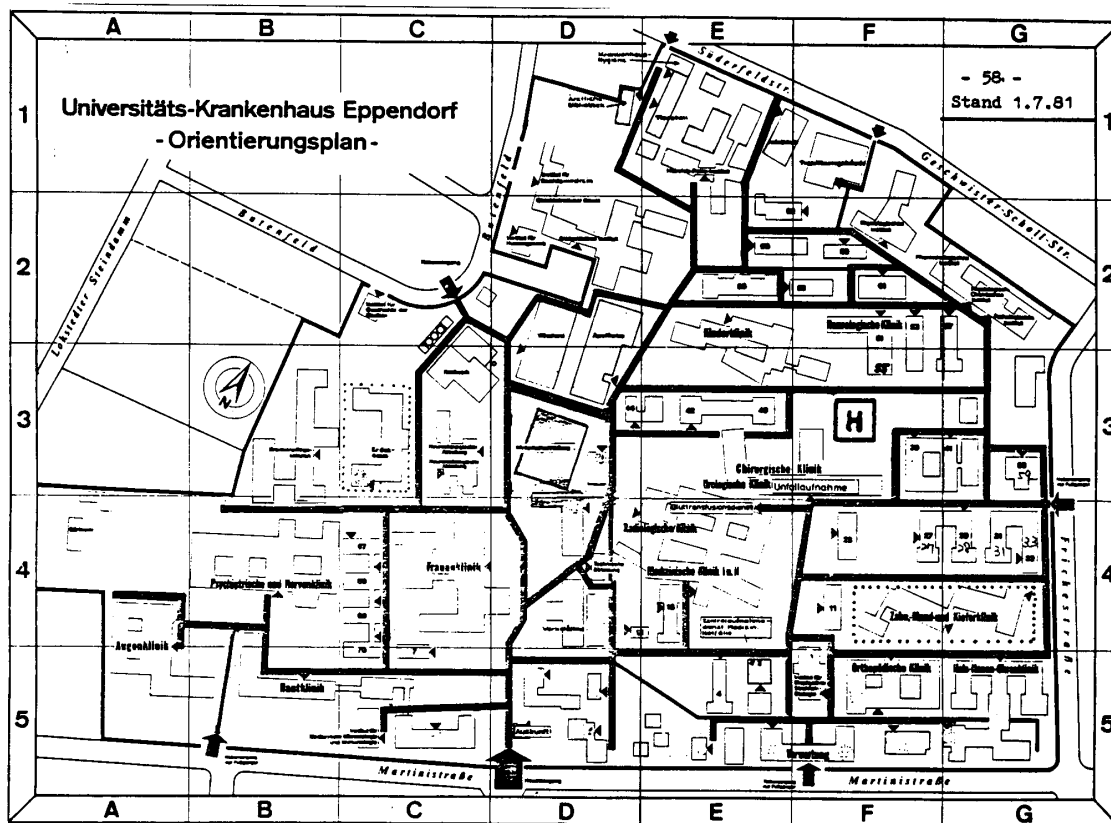
東日本学園大学歯学部口腔外科学第二講座

Hamburg はユトランド半島の付根に位置して、正称は Freie und Hansestadt Hamburg (自由ハンザ都市 Hamburg) と呼ばれ、ドイツ連邦共和国の北端に近く、ベルリンに次ぐ、西ドイツ第 2 の大都市で、人口 170 万弱を数え、北海に注ぐエルベ河にドイツ最大の河川港をもち、ヨーロッパでは最も重要な商港の一つです。

気候は北海に面しているため緯度が高い割には、冬はさほど厳しい寒さもなく、積雪は非常に少なく、夏・冬ともに気温は札幌と似ていま

す。Hamburg も札幌と同様に緑が多く、また公園も多く、春がもっとも美しい時期でいろいろの草木の花が一斉に咲きほころびます。街の中心に美しい大きな人工湖があり、広さ 180ha で、湖上には白鳥などの水鳥が遊び、夏はヨット、冬はスケート、そして湖上を定期船、遊覧船が走っています。

交通機関は U-Bahn (地下鉄) が 5 本, S-Bahn (高速電車) が 3 本, その他網の目の様にバスが通っており、すべての交通機関は共通切符



病院案内図

FG-4点線内が Kieferklinik

27. 28. 31. 33が補綴, 保存, 矯正歯科  
小児歯科の診療室 59講義室

C-3点線内が食堂



Prof. Dr. Dr. Pfeifer  
写真中央はクリスマスの飾り物で  
100年以上 たっているもので、キ  
リストの生涯を描いてある。



B棟 3階にある中央手術室

で乗車できます。そして歴史的にはブラームス、メンデルスゾーンらが誕生した音楽の都でもあります。

さて、私の留学した大学は Hamburg の中央より北にバスで20分程の住宅地に 100ha位の面積をもったドイツ連邦共和国最大の Hamburg 大学医学部顎外科で名称はUniversität Hamburg 大学医学部顎外科で名称はUniversität Hamburg Universitäts -Krankenhaus klinik für Kieferkrankheiten Eppendorf (FG-4)と言います。この顎外科だけで東日本学園大学歯学部建物と同じ大きさのものを持っています。A 棟は 4 階建の 100 床を持つ入院棟、B 棟も 4 階建で中央手術室及び外来手術室そして歯科放射線科等があり、C 棟は 5 階建の外来治療室等

のある 3 棟よりなっています。そのほか外科、内科等全科がそれぞれ独立した同様な、それ以上の規模の建物及びそれに付属する Instituts, および事務管理棟があり、事務管理棟で全科の入院患者をコンピューターにより、すべて把握しています。

スタッフを紹介しますと、DirektorはProf. Dr. Dr. Pfeiferで、その下に 4 名の Ober arzt がいます。Ober arztの上 3 名はProf.の資格を持った人で、他の 1 名はPrivat dozentで、まだProf. の試験を通過していない様です。Ober arzt は助手の教育及び外来、病棟、手術室の管理、運営をおこなっています。Ober arzt の下に常勤Assistent が30名、その他海外、国内より来ている研修生、招聘研究員等が10名ほどで、常勤Assistent の内から病棟担当医12名、

1 週間の予定表

	7:10	8:00	8:15	9:45	10:00	12:00	1:00	2:00	3:00	4:00
月	Ober arzt回診 4階病棟	当直医報告 医局連絡事項							次日手術予定	助手教育、口腔外科・ 病理について
火	Ober arzt回診 3階病棟	当直医報告 医局連絡事項								
水	レントゲンカンファ レンス	当直医報告 医局連絡事項	病棟教 授回診	次日手 術予定	病棟別外来通院 患者経過観察	外来通院患者 経過観察	悪性腫瘍外来通 院患者経過観察			
木	Ober arzt回診 2階病棟	当直医報告 医局連絡事項								次日手術予定
金	Ober arzt回診 1階病棟	当直医報告 医局連絡事項					唇顎口蓋裂患者経過観察 (2週間に一度外来教授回診)			次日手術予定

1階病棟乳幼児病棟、2階病棟Privat. 3階病棟女子病棟、4階病棟男子病棟、  
外来診療時間 8:15~4:00  
手術室診療時間 8:15~ (水曜日は中央手術室の手術はない)

外来担当医10名, 手術室担当医 8名にわかれ, それぞれ6ヶ月交替で病棟, 手術室と回っています。外来担当医10名は歯科医師で, 常時外来を担当しています。他の20名は歯科医師, 医師の免許を持った人々です。またOber arztは歯科医師, 医師の2つの免許を持った人か, 医師の免許だけを持った人です。麻酔医は医学部の麻酔科より5-6名の麻酔医が1ヶ月交替で回ってきますが, 主任医は常勤の医師が当り, 麻酔医はすべて医師で, 歯科医は麻酔をおこないません。ドイツでは米国, 英国, オーストリア, 日本等と異なり, 顎外科は歯科医師免許だけの人はあまり行いません。麻酔も顎外科の場合は, 歯科医師免許だけの人はあまり行いません。ただ研修生, 招聘研究員は歯科医師免許のみでも顎外科の治療を行うことができます。

勤務時間は朝7時30分より夕方4時まで, 土曜日は休日となっています。昼食時間は11時30分から2時の間ですが, 特に昼食休みの時間はなく, それぞれ手のあいた者から食事に行き, また診療を続けるといった様です。昼食は常勤医員はKieferklinikの地下の食堂で食事ができますが, 研究生, 招聘研究員は, Kieferklinikから往復30分位の所にあるErikahaus (C-3)で食事をします。ただ事務系は12時より2時までの昼食休みがあります。診療中には休み時間はありませんが, おもしろいのは, 各自が10時頃になるとKaffee pauseと言って30分ほど休憩して, コーヒーを飲み, ケーキ等を食べなが

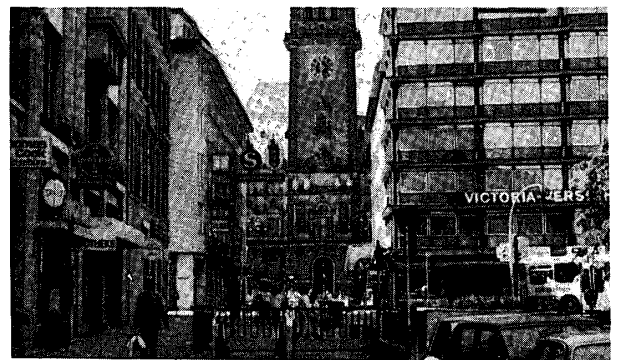


病院入口 (Fig-5にある入口)

ら談話を楽しんでいます。手術室では, 手術と手術の合間にKaffee pauseを取りますが, 手術が長びくと, 手術の途中で10分位のkaffee pauseとって, 術者全員で休憩を取ります。

手術内容, 手技は日本とほとんど変わりはない様ですが, Prof. Dr. Dr. Pfeierが考案した口唇形成術又は修正術に使えるWavemethodは注目する方法と思われます。そして若い助手が高度の手術を丁寧に行っているのが非常に印象的でした。また交通外傷等の救急患者はヘリコプターで, 病院内のヘリポート (F-3)へ運ばれ, Unfall chirurgische klinkで顎顔面の処置をおこないます。そのような時は顎外科手術室より手術機器一式を持って出張します。手術は中央手術室で年間1800例で, 1日6-9例の全麻手術を3つの手術室でおこない, 主に悪性腫瘍, 骨折, 唇顎口蓋裂, 顔面変形等の手術が主体をなしています。外来手術室は4つあり, ほとんどが局麻の手術で, 1日平均9例ほどの手術をおこない, 主に歯根端切除, 下顎智歯の抜歯, 小さな嚢胞摘出等です。以上がNord-westdeutsche Kieferklinik der Universität Hamburgの概略です。

私は昭和56年8月から昭和57年8月までの約1年間, 招聘研究員として長期海外研修しましたが, 学生教育そして治療に忙しい時期に研修出張をお許しいただいた堀越達郎教授, 金沢正昭教授および教室員各位, 大学関係各位に紙上をかり深謝いたします。



S-Bahnの駅入口と Hamburg市役所 (時計台のある建物)